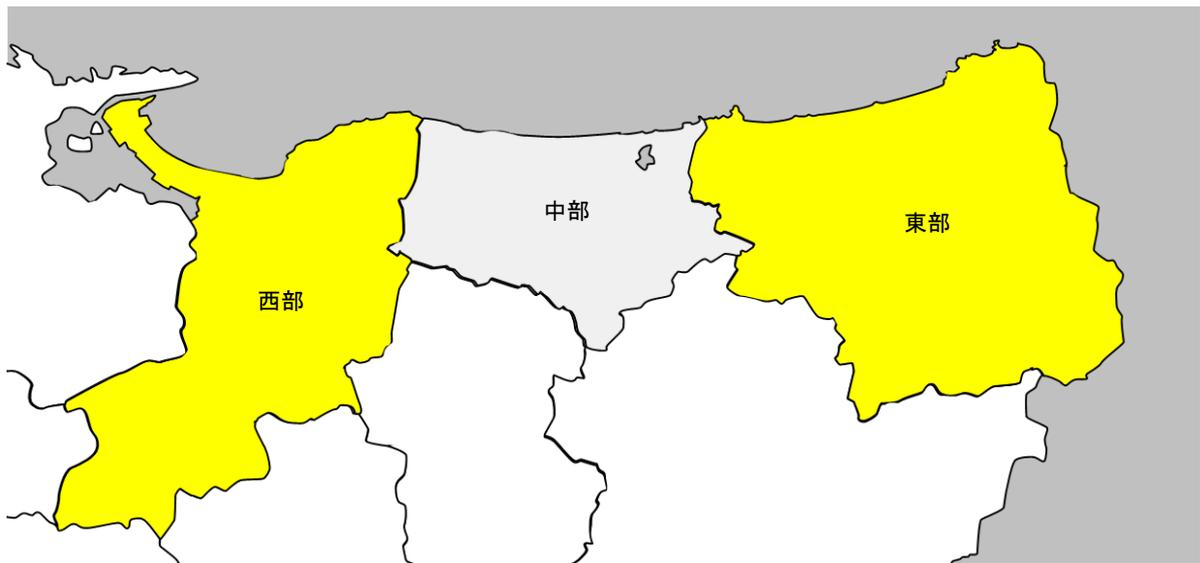


31. 鳥取県

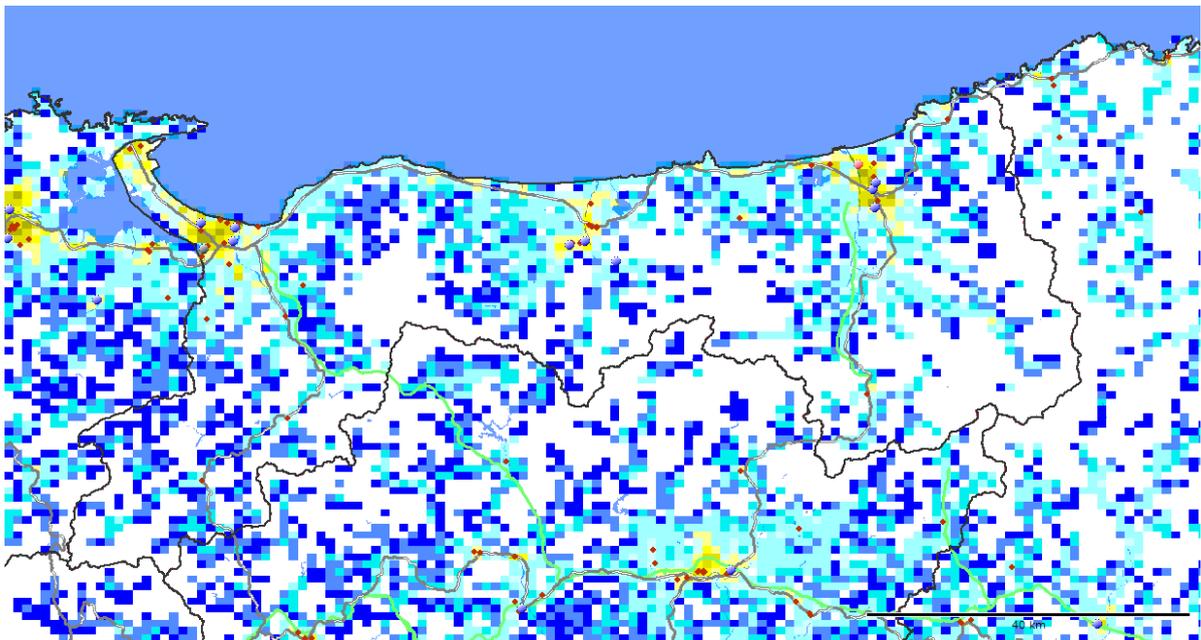


目次

鳥取県	31	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	31	-	8
1. 東部医療圏	31	-	20
2. 中部医療圏	31	-	25
3. 西部医療圏	31	-	30

31. 鳥取県

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キ口)



Ⅲ群

一般病院

（鳥取県） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 鳥取県は、総人口約567千人(2015年推計)、面積3507km²、人口密度は162人/km²である。

***人口の将来予測：** 鳥取県の総人口は2025年に520千人へと減少し(2015年比-8%)、2040年に441千人へと減少する(2025年比-15%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の90千人が、2025年にかけて105千人へと増加し(2015年比+17%)、2040年には106千人へと増加する(2025年比+1%)ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 鳥取県の一人当たり医療費(国保)は344千円(偏差値56)、介護給付費は307千円(偏差値64)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 鳥取県の一人当たり急性期医療密度指数²は1.33、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.28で、急性期の医療も慢性期の医療も充実している。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が56(病院医師数56、診療所医師数54)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は60と多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は57で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は60と多い。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は53と療養病床数はやや多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値61と多く、回復期病床数は偏差値62と多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は53で精神病床数はやや多い。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は56で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 鳥取県の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10176人(75歳以上1000人当たりの偏差値58)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が6740床(偏差値62)、高齢者住宅等が3436床(偏差値49)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、8842人(75歳以上1000人当たりの偏差値69)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設76、特別養護老人ホーム51、介護療養型医療施設47、有料老人ホーム42、軽費ホーム57、グループホーム53、サ高住56である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値49と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値46とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値60と多い。介護職員(在宅)の合計は、1015人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は+3%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

鳥取県の総人口は、2005年607012人が、2015年に567193人と7%減少し、2025年の人口が519861人と予測され、2005年→2025年の間に14%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけてほぼ増減なしと予測される。

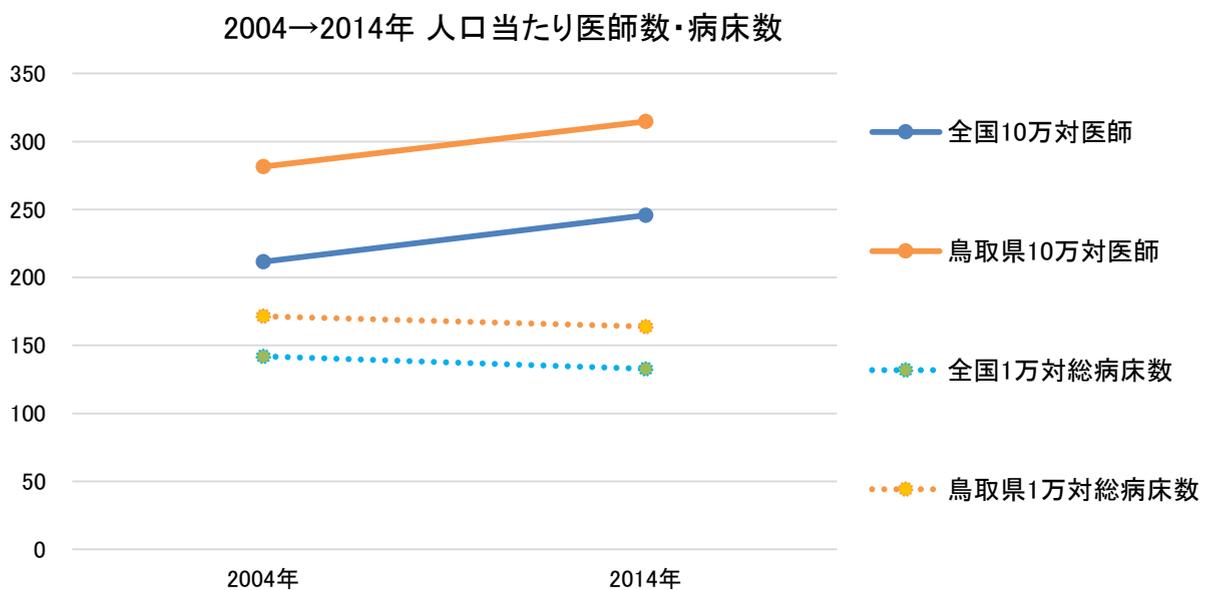
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が46(人口10万人当たり7.6病院(全国平均7.1)偏差値51)であったが、2014年に45(人口10万人当たり7.9病院(全国平均6.7)偏差値53)となり、10年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が553(人口10万人当たり91診療所(全国平均76)偏差値58)であったが、2014年に511(人口10万人当たり90診療所(全国平均79)偏差値56)と、42診療所が減少した。

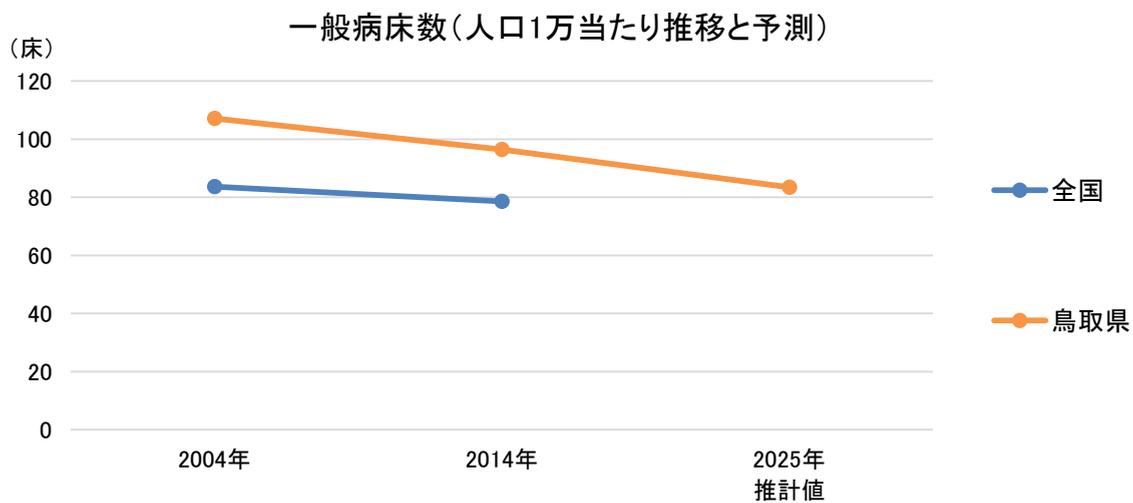
2004年の総病床数が10410床(人口1万人当たり171(全国平均142)偏差値55)であったが、2014年に9291床(人口1万人当たり164(全国平均133)偏差値56)と、1119床の減少、率にして11%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が1709人(人口10万人当たり282人(全国平均212人)偏差値58)であったが、2014年に1785人(人口10万人当たり315人(全国平均246人)偏差値57)と、76人の増加、率にして4%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。



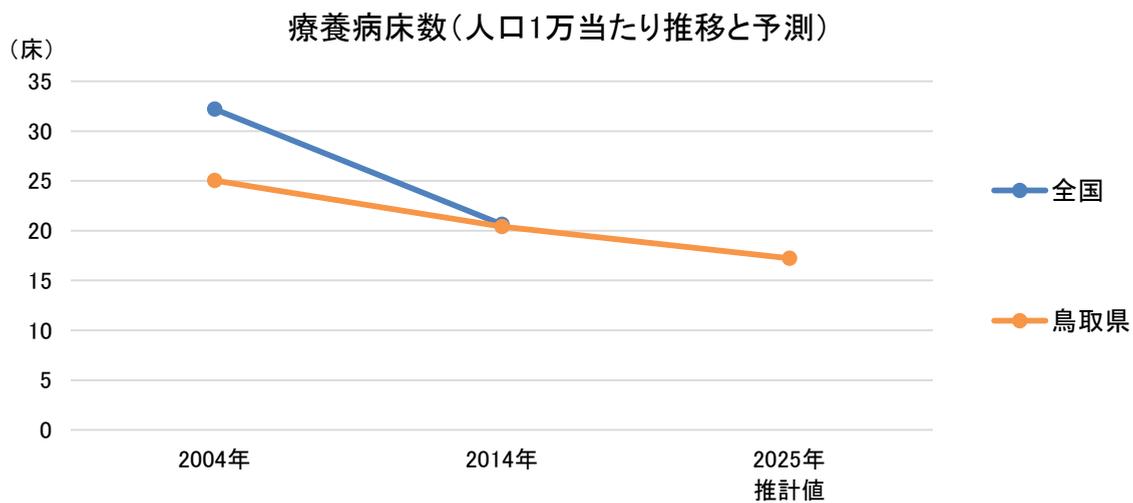
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が6500床(人口1万人当たり107(全国平均84)偏差値58)であったが、2014年に5469床(人口1万人当たり96(全国平均79)偏差値57)と、1031床の減少、率にして16%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には4336床(2025年の推計人口1万人当たり83)になることが予想される。



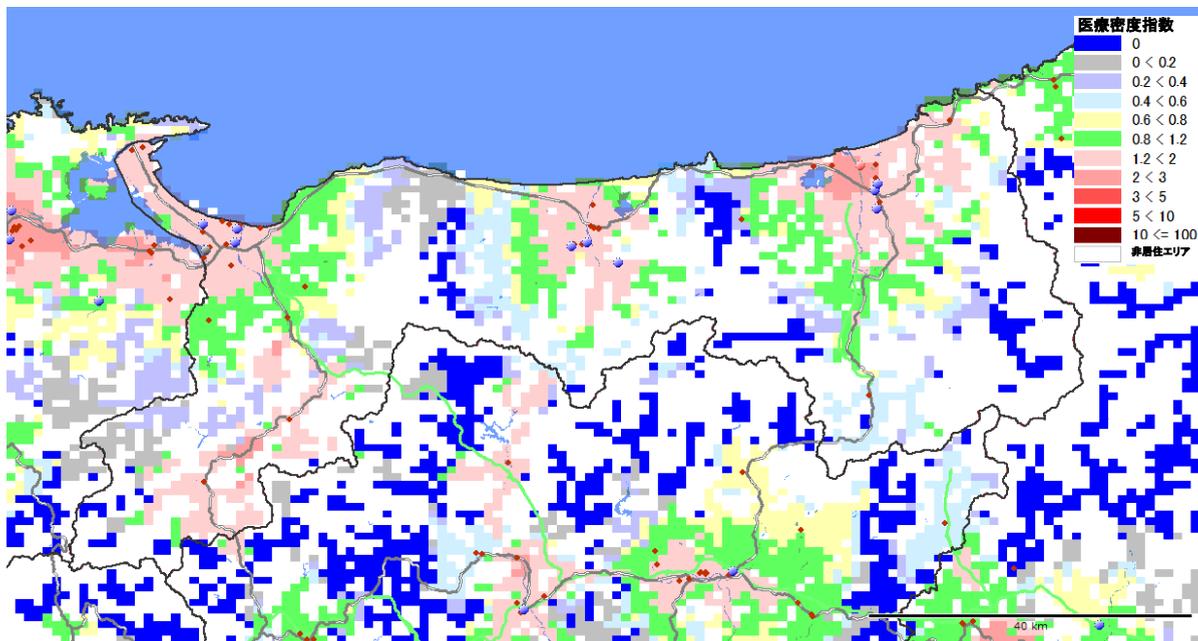
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1879床(75歳以上1000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2014年に1845床(75歳以上1000人当たり20(全国平均21)偏差値50)と、34床の減少、率にして2%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1807床(2025年の推計75歳以上1000人当たり17)になることが予想される。

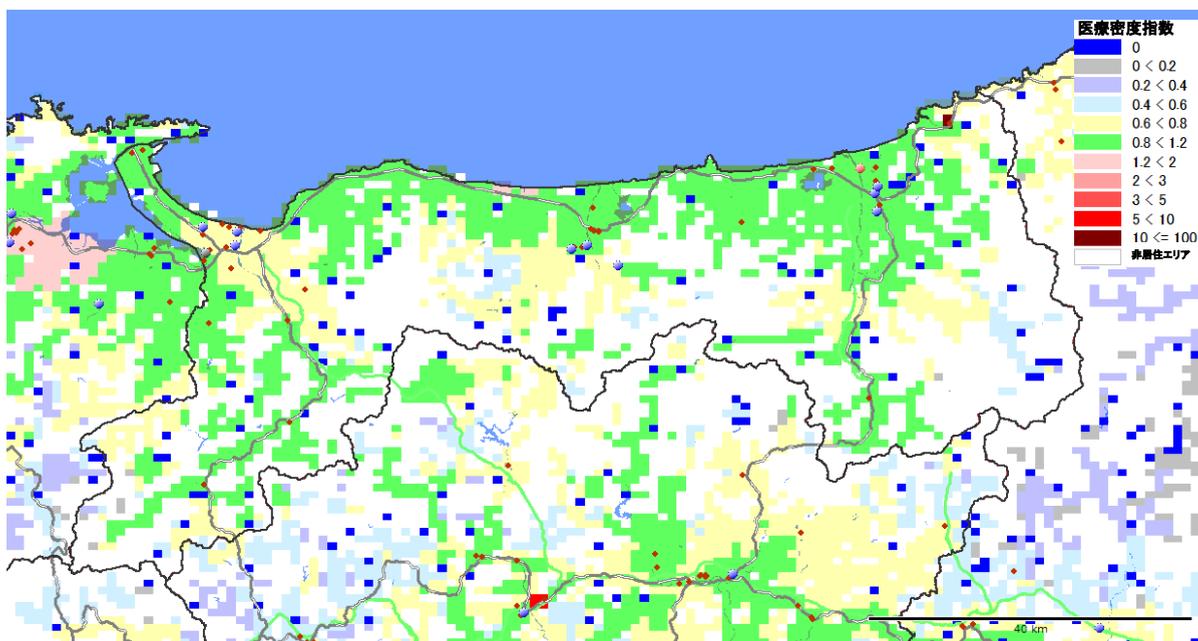


3. 医療密度⁵

図表31-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-2 慢性期医療密度指数マップ



31. 鳥取県（2016年版）

資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料⁶

資_図表 31-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	126,661		372,903		339.7		27%	120,700	107,439	16,459	21,775	22,232	-5%	-11%	32%	2%
鳥取県	567	47位	3,507	41位	161.7		30%	520	441	90	105	106	-8%	-15%	17%	1%
東部	231	41%	1,519	43%	152.4	地方都市型	28%	213	182	35	40	43	-8%	-15%	14%	8%
中部	104	18%	781	22%	132.9	過疎地域型	32%	94	78	18	20	20	-10%	-17%	11%	0%
西部	232	41%	1,208	34%	192.0	地方都市型	31%	213	181	38	45	43	-8%	-15%	18%	-4%
出典	<人口(2015年、2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月 <面積>都道府県・市区町村別主要統計表 総務省統計局 平成22年															

資_図表 31-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度指数 (%)	
			2025年	2040年
全国	1.00	1.00	-26.7%	-27.2%
鳥取県	1.33	1.28	3.3%	2.6%
東部	1.43	1.19	-10.1%	-18.0%
中部	1.20	1.33	12.4%	13.8%
西部	1.30	1.07	9.7%	13.4%
出典	<一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。 <75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2016年の全国平均(99.3床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。			

資_図表 31-3 医療費、介護給付費⁷

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	319	(41)	1.000	254	(37)
鳥取県	344	56	0.986	307	64
東部	324	51	0.982	308	65
中部	346	57	1.032	306	64
西部	363	61	1.066	307	64
出典	<一人あたり医療費>平成25年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成26年度介護保険事業状況報告(年報) 平成26年度累計(平成26年3月サービス分から平成27年2月サービス分まで)				

資_図表 31-4 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数				診療所数			
	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,493		6.7	(4.1)	100,461		79	(19.5)
鳥取県	45	0.5%	7.9	53	511	0.5%	90	56
東部	14	31%	6.0	48	191	37%	83	52
中部	11	24%	10.6	59	85	17%	82	51
西部	20	44%	8.6	55	235	46%	101	61
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 31-5 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数(再掲)				無床診療所数				有床診療所数			
	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	有床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	100,461		79	(19.5)	92,106		73	(19.0)	8,355		6.6	(6.6)
鳥取県	511	0.5%	90	56	464	0.5%	82	55	47	0.6%	8.3	53
東部	191	37%	83	52	178	38%	77	52	13	28%	5.6	49
中部	85	17%	82	51	75	16%	72	50	10	21%	9.6	55
西部	235	46%	101	61	211	45%	91	60	24	51%	10.3	56
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

31. 鳥取県（2016年版）

資_図表 31-6 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院総病床数				診療所病床数				病院+診療所病床数			
	総病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,568,261		1,238	(503)	112,364		89	(106)	1,680,625		1,327	(565)
鳥取県	8,722	0.6%	1,538	56	569	0.5%	100	51	9,291	0.6%	1,638	56
東部	3,503	40%	1,513	55	164	29%	71	48	3,667	39%	1,584	55
中部	1,593	18%	1,535	56	118	21%	114	52	1,711	18%	1,649	56
西部	3,626	42%	1,563	56	287	50%	124	53	3,913	42%	1,687	56
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資_図表 31-7 病院病床数（一般病床、療養病床、精神病床）

二次医療圏	一般病床数				療養病床数				精神病床数			
	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	894,216		706	(229)	328,144		259	(210)	338,174		267	(219)
鳥取県	4,954	0.6%	873	57	1,791	0.5%	316	53	1,931	0.6%	340	53
東部	1,939	39%	838	56	706	39%	305	52	826	43%	357	54
中部	996	20%	960	61	315	18%	304	52	278	14%	268	50
西部	2,019	41%	871	57	770	43%	332	53	827	43%	357	54
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 31-8 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数⁸

二次医療圏	回復期病床数				地域包括ケア病床数			
	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	70,480		56	(47)	36,025		34	(48)
鳥取県	627	0.9%	111	62	402	1.1%	71	58
東部	185	30%	80	55	61	15%	26	48
中部	162	26%	156	71	192	48%	185	81
西部	280	45%	121	64	149	37%	64	56
出典	平成26年度病床機能報告				平成28年6月地方厚生局（関東信越厚生局のみ7月公表分）。近畿厚生局は病床数データがないため非掲載。			

資_図表 31-9 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般病床数	療養病床数	総病床数	一般病床数	療養病床数	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差
全国	549,932	467,163	29,302	1,011,492	427,742	293,995	52.2%	(24%)	9.1%	(23%)
鳥取県	4,529	3,791	340	4,219	1,163	1,537	76.5%	60	18.1%	54
東部	1,941	1,599	97	1,608	340	715	82.5%	62	11.9%	51
中部	542	443	95	1,051	553	220	44.5%	47	30.2%	59
西部	2,046	1,749	148	1,560	270	602	86.6%	64	19.7%	55
出典	地方厚生局届出受理名簿平成27年5月公表データをもとに株式会社ウエルネスが集計(一部、ウエルネス独自調査含む) 公的病院はここでは、開設者が国もしくは都道府県、市町村、地方行政法人、その他の公的医療機関(日赤など)としている。									

資_図表 31-10 全身麻酔件数、分娩件数(年間)

二次医療圏	全身麻酔件数				分娩件数			
	全身麻酔件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	分娩件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	2,818,920		2,226	(1,063)	1,022,592		807	(286)
鳥取県	18,360	0.7%	3,237	60	5,736	0.6%	1,011	57
東部	5,100	28%	2,203	50	2,532	44%	1,094	60
中部	2,220	12%	2,139	49	900	16%	867	52
西部	11,040	60%	4,760	74	2,304	40%	993	57
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 31-11 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数				病院医師数				診療所医師数			
	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	340,791		269	(92)	210,112		166	(67)	130,678		103	(33)
鳥取県	1,818	0.5%	321	56	1,155	0.5%	204	56	664	0.5%	117	54
東部	589	32%	254	48	341	30%	147	47	248	37%	107	51
中部	245	13%	236	46	141	12%	136	46	104	16%	101	49
西部	984	54%	424	67	672	58%	290	69	311	47%	134	60
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

31. 鳥取県 (2016年版)

資_図表 31-12 専門医数 (総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科				小児科				産婦人科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	15,664		12.4	(6.7)	12,494		9.9	(4.6)	10,443		8.2	(3.8)
鳥取県	86	0.5%	15.2	54	99	0.8%	17.5	67	60	0.6%	10.6	56
東部	34	40%	14.7	53	25	25%	10.8	52	15	25%	6.5	45
中部	6	7%	5.8	40	8	8%	7.7	45	11	18%	10.6	56
西部	46	53%	19.8	61	66	67%	28.5	91	34	57%	14.7	67
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 31-13 専門医数 (皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科				眼科				耳鼻咽喉科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,278		4.2	(2.1)	9,392		7.4	(3.2)	7,466		5.9	(2.6)
鳥取県	24	0.5%	4.2	50	49	0.5%	8.6	54	37	0.5%	6.5	52
東部	7	29%	3.0	45	13	27%	5.6	44	9	24%	3.9	42
中部	2	8%	1.9	40	6	12%	5.8	45	3	8%	2.9	39
西部	15	63%	6.5	61	30	61%	12.9	67	25	68%	10.8	69
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 31-14 専門医数 (精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	8,293		6.5	(3.5)	20,395		16.1	(7.2)	15,369		12.1	(4.5)
鳥取県	42	0.5%	7.4	52	107	0.5%	18.9	54	91	0.6%	16.0	59
東部	13	31%	5.6	47	31	29%	13.4	46	23	25%	9.9	45
中部	6	14%	5.8	48	13	12%	12.5	45	16	18%	15.4	57
西部	23	55%	9.9	60	63	59%	27.2	65	52	57%	22.4	73
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 31-15 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,711		4.5	(2.1)	6,376		5.0	(2.4)	5,300		4.2	(3.0)
鳥取県	24	0.4%	4.2	49	27	0.4%	4.8	49	32	0.6%	5.6	55
東部	7	29%	3.0	43	9	33%	3.9	45	10	31%	4.3	50
中部	4	17%	3.9	47	5	19%	4.8	49	2	6%	1.9	42
西部	13	54%	5.6	55	13	48%	5.6	52	20	63%	8.6	65
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 31-16 専門医数(麻酔科、病理、救急科)

二次医療圏	麻酔科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,566		5.2	(3.1)	1,541		1.2	(0.9)	3,291		2.6	(1.7)
鳥取県	44	0.7%	7.8	58	13	0.8%	2.3	62	11	0.3%	1.9	46
東部	13	30%	5.6	51	4	31%	1.7	56	4	36%	1.7	45
中部	1	2%	1.0	36	1	8%	1.0	47	2	18%	1.9	46
西部	30	68%	12.9	75	8	62%	3.4	74	5	45%	2.2	47
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 31-17 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科				リハビリテーション科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,984		1.6	(1.2)	2,370		1.9	(1.3)
鳥取県	6	0.3%	1.1	46	16	0.7%	2.8	57
東部	1	17%	0.4	41	7	44%	3.0	59
中部	0	0%	0	37	0	0%	0	36
西部	5	83%	2.2	55	9	56%	3.9	65
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月							

31. 鳥取県（2016年版）

資_図表 31-18 看護師数（総数、病院看護師数、診療所看護師数）

二次医療圏	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,100,601		869	(289)	903,500		713	(241)	197,102		156	(74)
鳥取県	6,507	0.6%	1,147	60	5,330	0.6%	940	59	1,177	0.6%	207	57
東部	2,628	40%	1,135	59	2,117	40%	915	58	511	43%	221	59
中部	1,143	18%	1,101	58	920	17%	886	57	223	19%	215	58
西部	2,736	42%	1,180	61	2,293	43%	989	61	443	38%	191	55
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 31-19 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	薬剤師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	119,431		94	(52)	288,151		227	(98)
鳥取県	858	0.7%	151	61	1,091	0.4%	192	46
東部	264	31%	114	54	415	38%	179	45
中部	162	19%	156	62	182	17%	175	45
西部	432	50%	186	68	494	45%	213	49
出典	平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月			

資_図表 31-20 在宅医療施設数（在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション）

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,679		0.9	(0.5)	1,120		0.1	(0.1)	9,602		0.6	(0.2)
鳥取県	77	0.5%	0.9	49	4	0.4%	0.0	46	69	0.7%	0.8	60
東部	25	32%	0.7	46	1	25%	0.0	44	24	35%	0.7	56
中部	13	17%	0.7	46	2	50%	0.1	57	11	16%	0.6	51
西部	39	51%	1.0	53	1	25%	0.0	44	34	49%	0.9	68
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成28年5月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成28年5月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成28年5月			

資_図表 31-21 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護保険施設定員 (病床)数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
鳥取県	10,176	0.6%	113	58	6,740	0.7%	75	62	3,436	0.5%	38	49
東部	3,212	32%	93	46	2,433	36%	70	58	779	23%	22	39
中部	2,141	21%	118	61	1,433	21%	79	65	708	21%	39	50
西部	4,823	47%	129	68	2,874	43%	77	63	1,949	57%	52	58
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資_図表 31-22 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護療養病床数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
鳥取県	3,331	0.9%	37	76	3,136	0.6%	35	51	273	0.4%	3.0	47
東部	937	28%	27	59	1,274	41%	37	53	222	81%	6.4	56
中部	819	25%	45	90	614	20%	34	50	0	0%	0	40
西部	1,575	47%	42	85	1,248	40%	33	50	51	19%	1.4	43
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-23 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	軽費ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	グループホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
鳥取県	457	0.2%	5.1	42	262	1.2%	2.9	57	1,206	0.6%	13.3	53
東部	86	19%	2.5	39	90	34%	2.6	56	279	23%	8.0	44
中部	0	0%	0	37	0	0%	0	43	432	36%	23.8	72
西部	371	81%	9.9	46	172	66%	4.6	65	495	41%	13.2	53
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

31. 鳥取県（2016年版）

資_図表 31-24 サービス付き高齢者専用賃貸住宅（サ高住）定員数

二次医療圏	サ高住(全施設)				サ高住(特定施設)				サ高住(非特定施設)			
	サ高住 (全施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住 (特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住 (非特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	212,481		12.9	(6.7)	13,027		0.8	(1.6)	199,454		12.1	(6.3)
鳥取県	1,511	0.7%	16.7	56	154	1.2%	1.7	56	1,357	0.7%	15.0	55
東部	324	21%	9.3	45	40	26%	1.2	52	284	21%	8.2	44
中部	276	18%	15.2	53	0	0%	0	45	276	20%	15.2	55
西部	911	60%	24.3	67	114	74%	3.0	64	797	59%	21.2	65
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計				平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				平成28年4月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの			

資_図表 31-25 介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サービス従事 看護師数				看護師数 (施設)				看護師数 (訪問)			
	介護サー ビス従事 看護師数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (訪問)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	160,468		9.7	(2.4)	118,281		7.2	(2.2)	42,186		2.6	(0.8)
鳥取県	1,055	0.7%	11.7	58	786	0.7%	8.7	57	269	0.6%	3.0	55
東部	411	39%	11.9	59	329	42%	9.5	61	82	31%	2.4	48
中部	172	16%	9.5	49	125	16%	6.9	49	47	18%	2.6	50
西部	471	45%	12.6	62	332	42%	8.8	58	140	52%	3.7	64
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-26 介護サービス従事介護職員数（介護施設等、在宅介護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サー ビス従事 介護職員 数				介護職員 数 (介護施設 等)				介護職員 数 (在宅)			
	介護サー ビス従事 介護職員 数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,482,791		90	(12.3)	1,259,191		77	(11.5)	223,600		13.6	(5.5)
鳥取県	9,857	0.7%	109	65	8,842	0.7%	98	69	1,015	0.5%	11.2	46
東部	3,590	36%	104	61	3,240	37%	93	65	351	35%	10.1	44
中部	2,088	21%	115	70	1,894	21%	104	74	194	19%	10.7	45
西部	4,179	42%	111	67	3,709	42%	99	69	470	46%	12.5	48
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-27 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,072,285		65	(31)	412,167		25	(11)	1,493,642		91	(31)
鳥取県	5,510	0.5%	61	49	1,946	0.5%	22	47	5,832	0.4%	65	42
東部	1,967	36%	57	47	625	32%	18	43	2,166	37%	62	41
中部	764	14%	42	42	326	17%	18	43	1,238	21%	68	43
西部	2,779	50%	74	53	995	51%	27	51	2,428	42%	65	42
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-28 総人口の推移と医療需要の増減

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移 (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年 (推計)	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 2015医療 点数増減 率	2015→ 2025医療 点数増減 率	2005→ 2025医療 点数増減 率
全国		127,767,994	126,660,501	-1%	120,699,960	-6%	13%	5%	18%
鳥取県		607,012	567,193	-7%	519,861	-14%	4%	0%	4%
東部	地方都市型	247,469	231,491	-6%	213,294	-14%	4%	1%	5%
中部	過疎地域型	113,177	103,779	-8%	93,606	-17%	1%	-2%	-1%
西部	地方都市型	246,366	231,923	-6%	212,961	-14%	6%	0%	6%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,昼間人口など) <人口(2015年、2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月								

資_図表 31-29 病院数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年 推計値
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,493	6.7	(4.1)	-584	-6%	7,882
鳥取県	46	7.6	51	45	7.9	53	-1	-2%	44
東部	15	6.1	47	14	6.0	48	-1	-7%	13
中部	11	9.7	57	11	10.6	59	0	0%	11
西部	20	8.1	53	20	8.6	55	0	0%	20
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

31. 鳥取県（2016年版）

資_図表 31-30 診療所数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	97,051	76	(20)	100,461	79	(19)	3,410	4%	104,229
鳥取県	553	91	58	511	90	56	-42	-8%	465
東部	213	86	55	191	83	52	-22	-10%	167
中部	99	87	56	85	82	51	-14	-14%	70
西部	241	98	61	235	101	61	-6	-2%	228
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

資_図表 31-31 医師数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	270,371	212	(84)	311,205	246	(98)	40,834	15%	356,135
鳥取県	1,709	282	58	1,785	315	57	76	4%	1,869
東部	539	218	51	562	243	50	23	4%	587
中部	217	192	48	225	217	47	8	4%	234
西部	953	387	71	998	430	69	45	5%	1,048
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2014年>平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月								

資_図表 31-32 総病床数(精神科を含む)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	1,812,554	142	(56)	1,680,625	133	(57)	-131,929	-7%	1,535,514
鳥取県	10,410	171	55	9,291	164	56	-1,119	-11%	8,061
東部	4,042	163	54	3,667	158	55	-375	-9%	3,255
中部	1,836	162	54	1,711	165	56	-125	-7%	1,574
西部	4,532	184	58	3,913	169	56	-619	-14%	3,232
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

資_図表 31-33 一般病床数(病院+診療所)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年(推計値)	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	数	人口 1万 当り
全国	1,068,821	84	(28)	995,170	79	(27)	-73,651	-7%	914,162	76
鳥取県	6,500	107	58	5,469	96	57	-1,031	-16%	4,336	83
東部	2,401	97	55	2,087	90	54	-314	-13%	1,742	82
中部	1,175	104	57	1,101	106	60	-74	-6%	1,020	109
西部	2,924	119	62	2,281	98	57	-643	-22%	1,574	74
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月									

資_図表 31-34 療養病床数(病院+診療所)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年(推計値)	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	数	75歳以上 1,000人 当り
全国	373,823	32	(18)	339,554	21	(12)	-34,269	-9%	301,883	14
鳥取県	1,879	25	46	1,845	20	50	-34	-2%	1,807	17
東部	718	25	46	722	21	50	4	1%	726	18
中部	379	24	45	328	18	48	-51	-13%	272	14
西部	782	26	46	795	21	50	13	2%	809	18
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月									

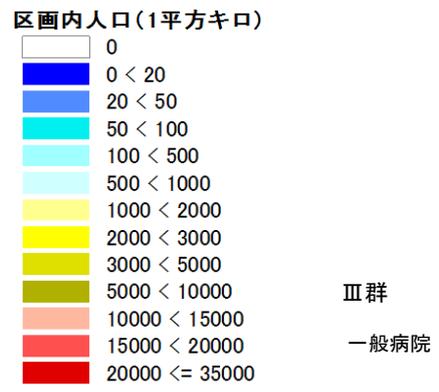
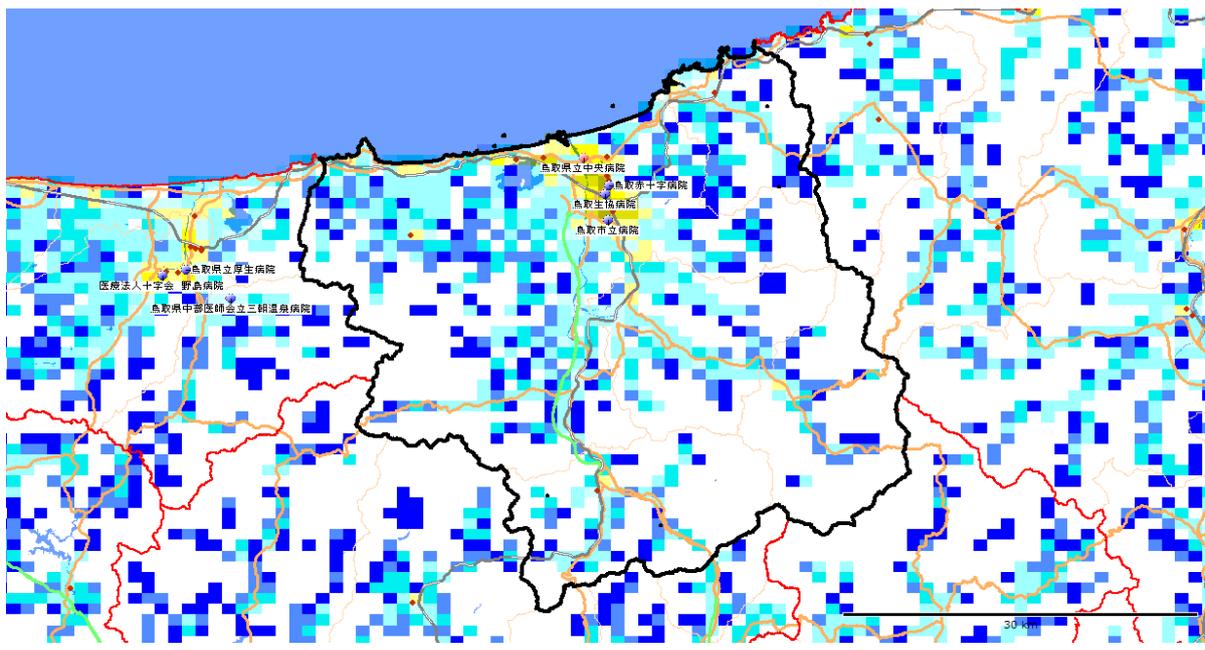
資_図表 31-35【補足】 市町村国民健康保険 診療種別、1人あたり実績医療費⁹

二次医療圏	医療費総計 (単位:千円)			入院費 (単位:千円)			入院外+ 調剤 (単位:千円)		
	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数	
全国	327	(42)	1.000	126	(29)	1.000	177	(17)	1.000
鳥取県	358	57	1.044	155	60	1.170	179	51	0.966
東部	341	53	1.001	149	58	1.134	166	43	0.900
中部	352	56	1.018	153	59	1.147	178	50	0.949
西部	377	62	1.080	161	62	1.196	193	59	1.019
出典	平成26年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

31-1. とうぶ 東部医療圏

構成市区町村¹⁰ [鳥取市](#) [岩美町](#) [若桜町](#) [智頭町](#)
[八頭町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



(東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 東部(鳥取市)は、総人口約231千人(2015年推計)、面積1519km²、人口密度は152人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 東部の総人口は2025年に213千人へと減少し(2015年比-8%)、2040年に182千人へと減少する(2025年比-15%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の35千人が、2025年にかけて40千人へと増加し(2015年比+14%)、2040年には43千人へと増加する(2025年比+8%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 東部の一人当たり医療費(国保)は324千円(偏差値51)、介護給付費は308千円(偏差値65)であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費は高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 東部の一人当たり急性期医療密度指数²は1.43、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.19で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数³の偏差値が48(病院医師数47、診療所医師数51)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は59と多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は56で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は50と全国平均レベルである。東部には、年間全身麻酔件数が1000例以上の鳥取市立病院(Ⅲ群)、鳥取赤十字病院(Ⅲ群)、鳥取県立中央病院(Ⅱ群・救命)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値54とやや多く、回復期病床数は偏差値55とやや多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は52で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、3212人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が2433床(偏差値58)、高齢者住宅等が779床(偏差値39)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3240人(75歳以上1000人当たりの偏差値65)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設59、特別養護老人ホーム53、介護療養型医療施設56、有料老人ホーム39、軽費ホーム56、グループホーム44、サ高住45である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値46とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値44と少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値56と多い。介護職員(在宅)の合計は、351人(75歳以上1000人当たりの偏差値44)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

*介護の2040年の需要予測： 2040年の介護充足度指数⁴は-18%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

東部医療圏の総人口は、2005年247469人が、2015年に231491人と6%減少し、2025年の人口が213294人と予測され、2005年→2025年の間に14%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

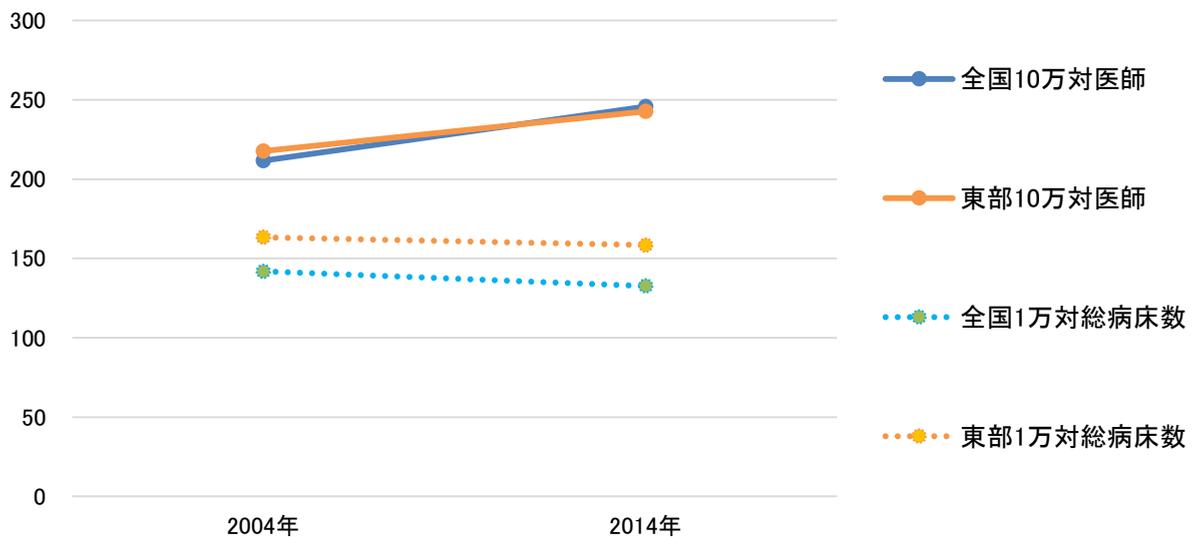
2004年の病院数が15(人口10万人当たり6.1病院(全国平均7.1)偏差値47)であったが、2014年に14(人口10万人当たり6病院(全国平均6.7)偏差値48)となり、10年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が213(人口10万人当たり86診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2014年に191(人口10万人当たり83診療所(全国平均79)偏差値52)と、22診療所が減少した。

2004年の総病床数が4042床(人口1万人当たり163(全国平均142)偏差値54)であったが、2014年に3667床(人口1万人当たり158(全国平均133)偏差値55)と、375床の減少、率にして9%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

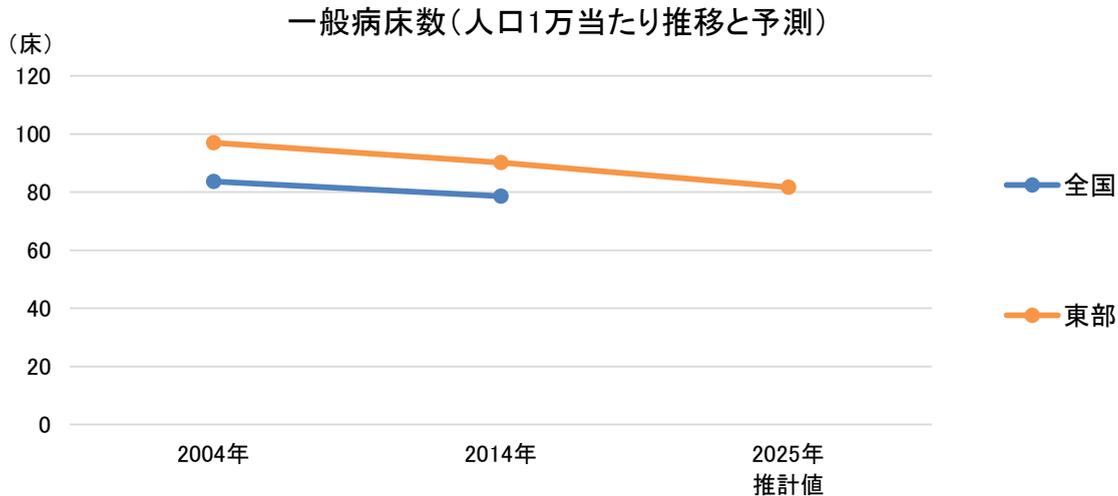
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が539人(人口10万人当たり218人(全国平均212人)偏差値51)であったが、2014年に562人(人口10万人当たり243人(全国平均246人)偏差値50)と、23人の増加、率にして4%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



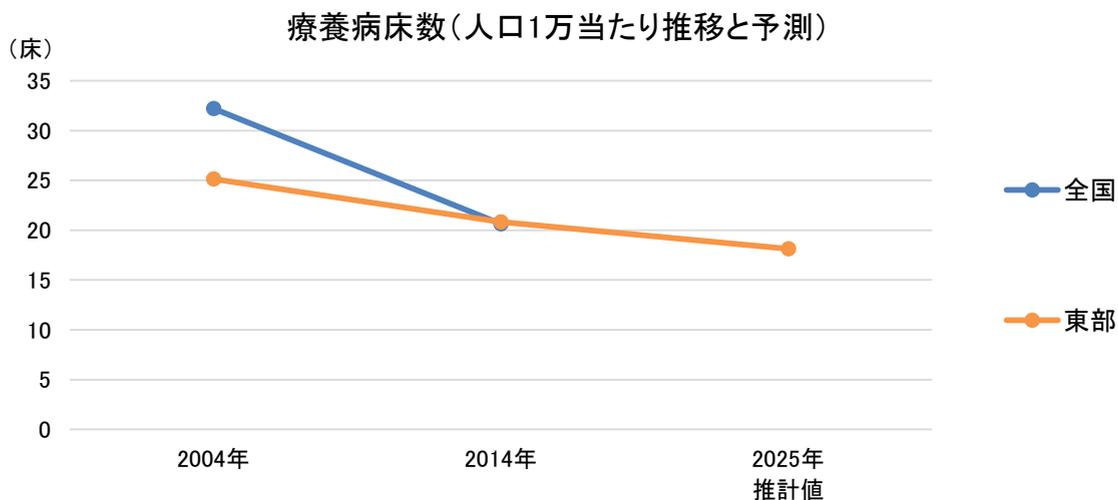
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2401床(人口1万人当たり97(全国平均84)偏差値55)であったが、2014年に2087床(人口1万人当たり90(全国平均79)偏差値54)と、314床の減少、率にして13%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1742床(2025年の推計人口1万人当たり82)になることが予想される。



【療養病床の推移と今後の予測】

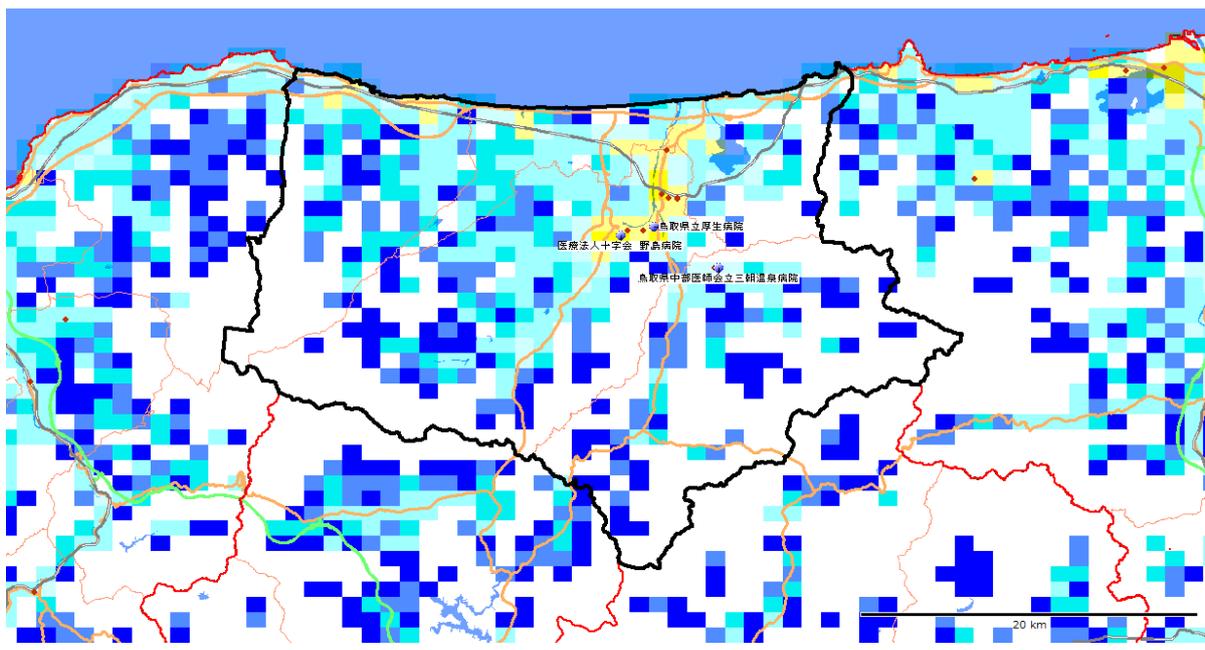
2004年の療養病床(病院+診療所)が718床(75歳以上1000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2014年に722床(75歳以上1000人当たり21(全国平均21)偏差値50)と、4床の増加、率にして1%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で増加が続くとすると2025年には726床(2025年の推計75歳以上1000人当たり18)になることが予想される。



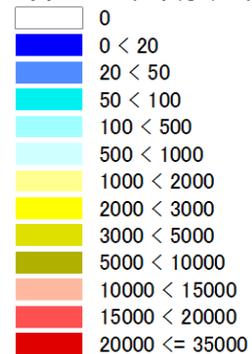
31-2. ちゅうぶ 中部医療圏

構成市区町村¹⁰ [倉吉市](#) [三朝町](#) [湯梨浜町](#) [琴浦町](#)
[北栄町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群
 一般病院

（中部医療圏） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 中部(倉吉市)は、総人口約104千人(2015年推計)、面積781km²、人口密度は133人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 中部の総人口は2025年に94千人へと減少し(2015年比-10%)、2040年に78千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の18千人が、2025年にかけて20千人へと増加し(2015年比+11%)、2040年には20千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 中部の一人当たり医療費(国保)は346千円(偏差値57)、介護給付費は306千円(偏差値64)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 中部の一人当たり急性期医療密度指数²は1.2、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.33で、急性期の医療も慢性期の医療も充実している。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が46(病院医師数46、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は58と多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は61で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は49と全国平均レベルである。中部には、年間全身麻酔件数が500例以上の鳥取県立厚生病院(Ⅲ群)がある。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値62と多く、回復期病床数は偏差値71と非常に多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は50で精神病床数は全国平均レベルである。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は51で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 中部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2141人(75歳以上1000人当たりの偏差値61)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1433床(偏差値65)、高齢者住宅等が708床(偏差値50)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1894人(75歳以上1000人当たりの偏差値74)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設90、特別養護老人ホーム50、介護療養型医療施設なし(偏差値40)、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム72、サ高住53である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値46とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値57と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値51と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、194人(75歳以上1000人当たりの偏差値45)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は+14%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

中部医療圏の総人口は、2005年113177人が、2015年に103779人と8%減少し、2025年の人口が93606人と予測され、2005年→2025年の間に17%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に1%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

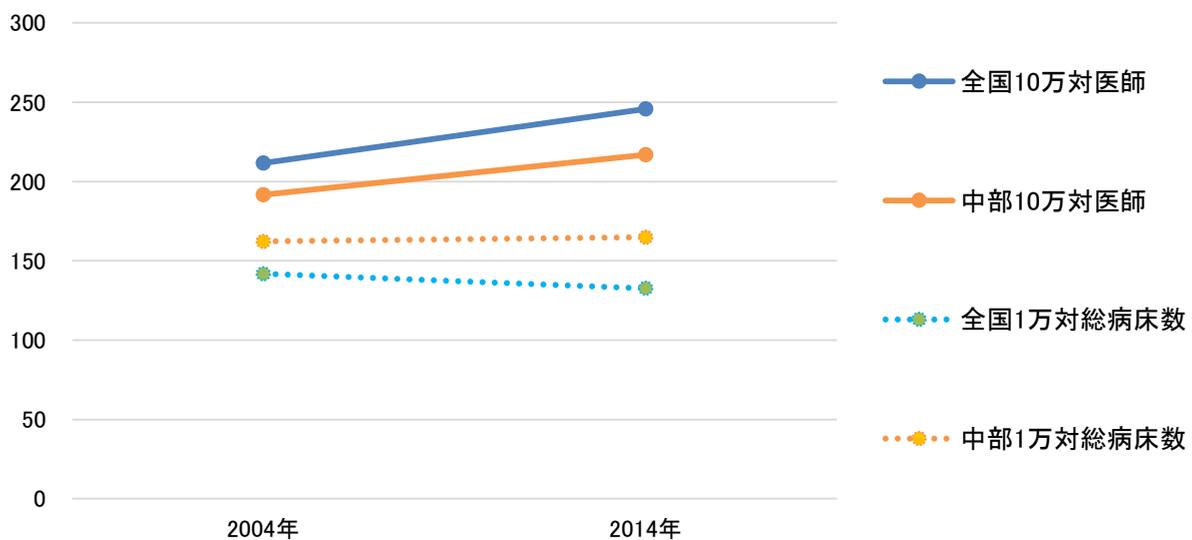
2004年の病院数が11(人口10万人当たり9.7病院(全国平均7.1)偏差値57)であったが、2014年に11(人口10万人当たり10.6病院(全国平均6.7)偏差値59)となり、10年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が99(人口10万人当たり87診療所(全国平均76)偏差値56)であったが、2014年に85(人口10万人当たり82診療所(全国平均79)偏差値51)と、14診療所が減少した。

2004年の総病床数が1836床(人口1万人当たり162(全国平均142)偏差値54)であったが、2014年に1711床(人口1万人当たり165(全国平均133)偏差値56)と、125床の減少、率にして7%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

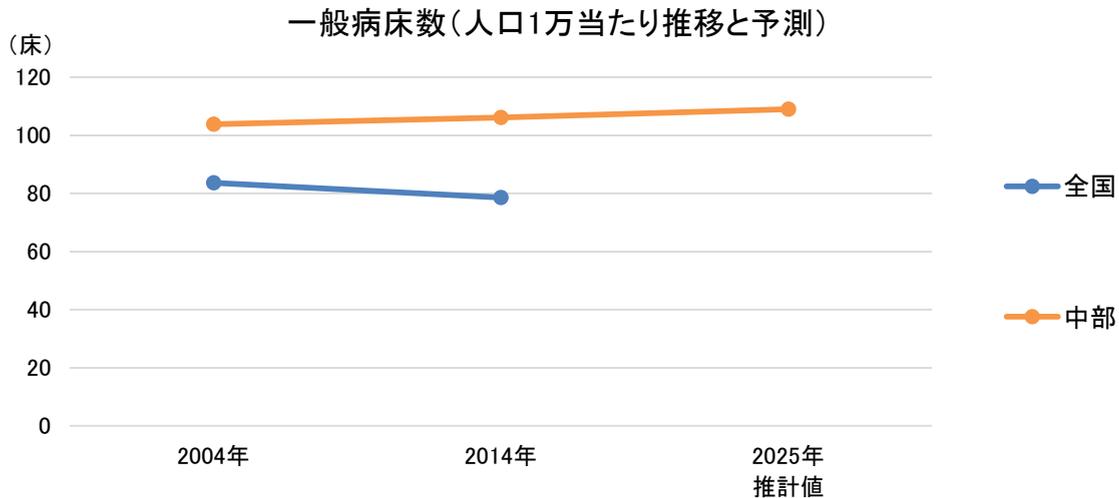
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が217人(人口10万人当たり192人(全国平均212人)偏差値48)であったが、2014年に225人(人口10万人当たり217人(全国平均246人)偏差値47)と、8人の増加、率にして4%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



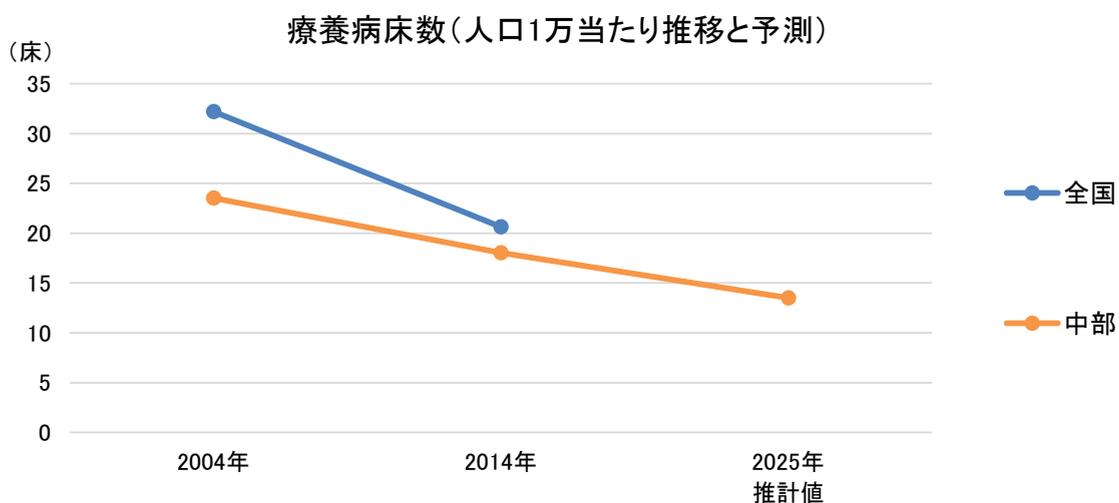
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1175床(人口1万人当たり104(全国平均84)偏差値57)であったが、2014年に1101床(人口1万人当たり106(全国平均79)偏差値60)と、74床の減少、率にして6%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1020床(2025年の推計人口1万人当たり109)になることが予想される。



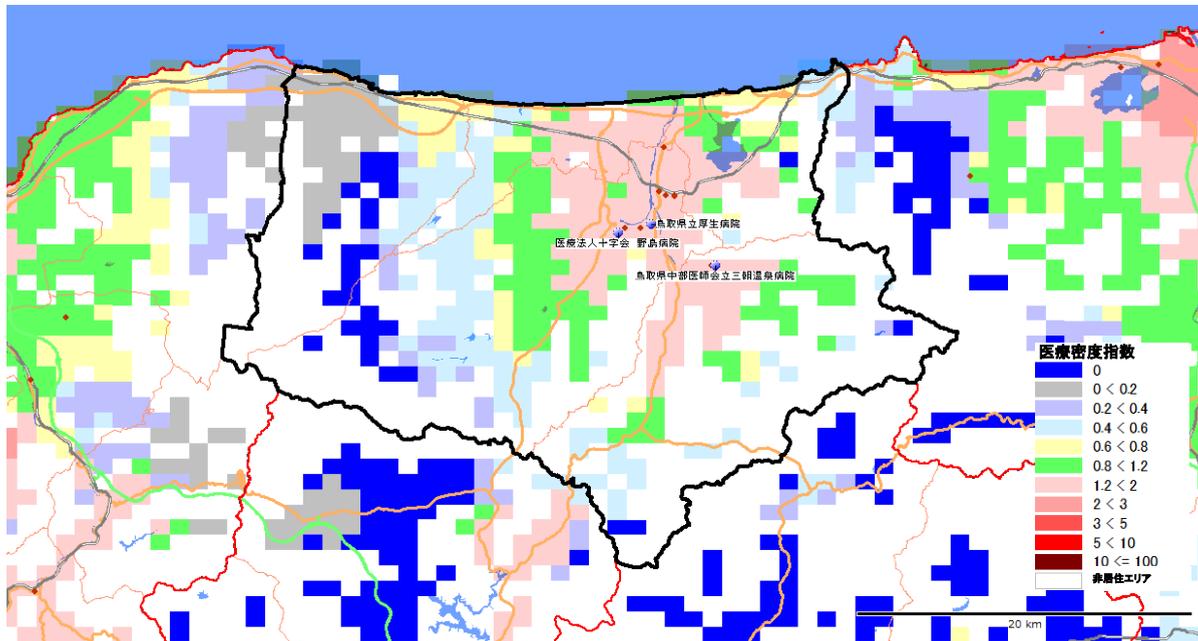
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が379床(75歳以上1000人当たり24(全国平均32)偏差値45)であったが、2014年に328床(75歳以上1000人当たり18(全国平均21)偏差値48)と、51床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には272床(2025年の推計75歳以上1000人当たり14)になることが予想される。

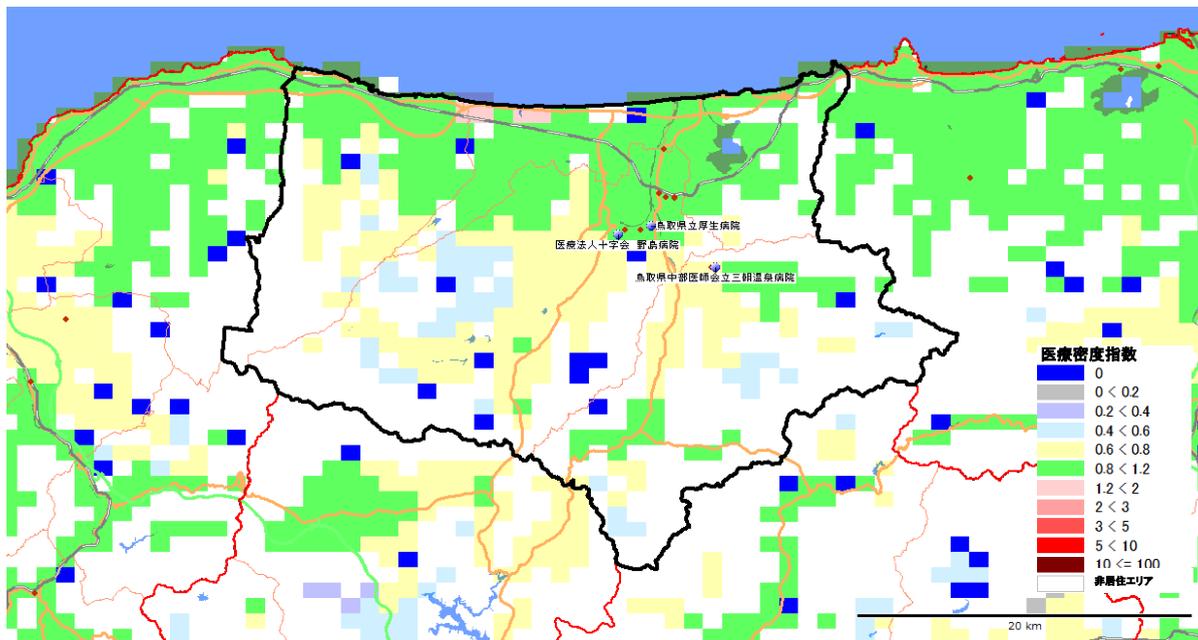


3. 医療密度⁵

図表31-2-1 急性期医療密度指数マップ



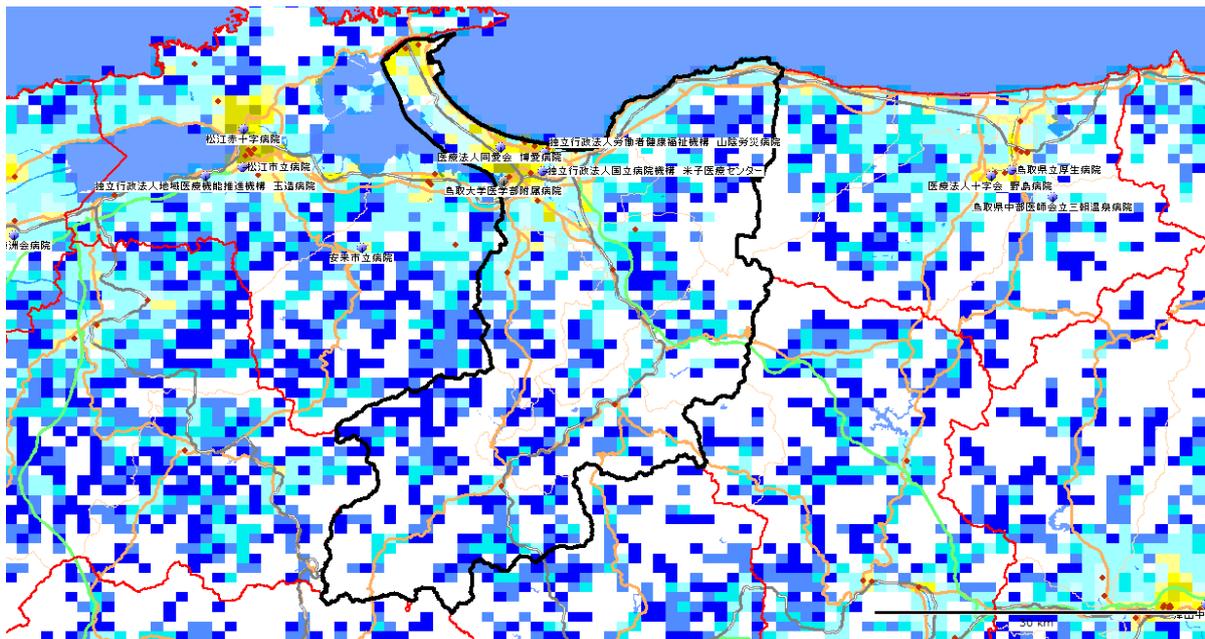
図表31-2-2 慢性期医療密度指数マップ



31-3. せいぶ西部医療圏

構成市区町村¹⁰ [米子市](#) [境港市](#) [且吉津村](#) [大山町](#)
[南部町](#) [伯耆町](#) [且南町](#) [日野町](#)
[江府町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キ口)



Ⅲ群
一般病院

(西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など：西部(米子市)は、総人口約232千人(2015年推計)、面積1208km²、人口密度は192人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測：西部の総人口は2025年に213千人へと減少し(2015年比-8%)、2040年に181千人へと減少する(2025年比-15%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の38千人が、2025年にかけて45千人へと増加し(2015年比+18%)、2040年には43千人へと減少する(2025年比-4%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費：西部の一人当たり医療費(国保)は363千円(偏差値61)、介護給付費は307千円(偏差値64)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度：西部の一人当たり急性期医療密度指数²は1.3、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.07で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状：総医師数³の偏差値が67(病院医師数69、診療所医師数60)と、総医師数は非常に多く、病院医師数は非常に多く、診療所医師数は多い。総看護師数の偏差値は61と多い。

*一般病床等の現状：人口当たりの一般病床の偏差値は57で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は74と非常に多い。西部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の鳥取大学医学部附属病院(I群・救命)、1000例以上の国立病院機構米子医療センター(Ⅲ群)、山陰労災病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状：人口当たりの療養病床の偏差値は53と療養病床数はやや多い。

*リハビリの現状：総療法士数は偏差値68と非常に多く、回復期病床数は偏差値64と多い。

*精神病床の現状：人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状：人口当たりの診療所数の偏差値は61で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状：西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、4823人(75歳以上1000人当たりの偏差値68)と全国平均レベルを大きく上回る。そのうち、介護保険施設の定員が2874床(偏差値63)、高齢者住宅等が1949床(偏差値58)である。介護保険施設、高齢者住宅等ともに全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3709人(75歳以上1000人当たりの偏差値69)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設85、特別養護老人ホーム50、介護療養型医療施設43、有料老人ホーム46、軽費ホーム65、グループホーム53、サ高住67である。

*在宅ケアの現状：在宅療養支援診療所は偏差値53とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値44と少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値68と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、470人(75歳以上1000人当たりの偏差値48)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

*介護の2040年の需要予測：2040年の介護充足度指数⁴は+13%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰きみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

西部医療圏の総人口は、2005年246366人が、2015年に231923人と6%減少し、2025年の人口が212961人と予測され、2005年→2025年の間に14%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に6%増加し、2015年から2025年にかけてほぼ増減なしと予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

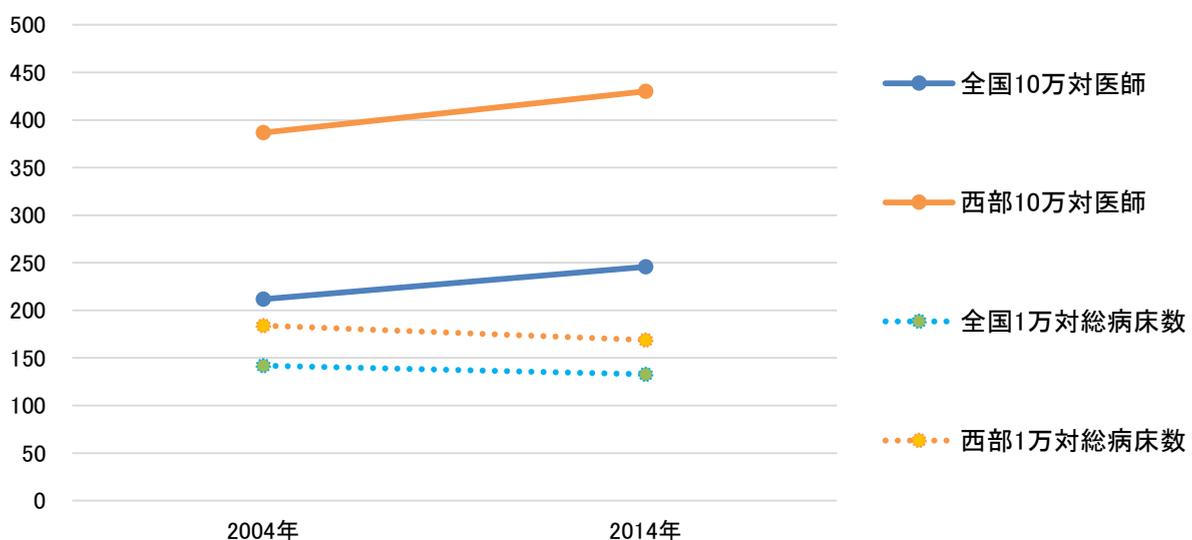
2004年の病院数が20(人口10万人当たり8.1病院(全国平均7.1)偏差値53)であったが、2014年に20(人口10万人当たり8.6病院(全国平均6.7)偏差値55)となり、10年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が241(人口10万人当たり98診療所(全国平均76)偏差値61)であったが、2014年に235(人口10万人当たり101診療所(全国平均79)偏差値61)と、6診療所が減少した。

2004年の総病床数が4532床(人口1万人当たり184(全国平均142)偏差値58)であったが、2014年に3913床(人口1万人当たり169(全国平均133)偏差値56)と、619床の減少、率にして14%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

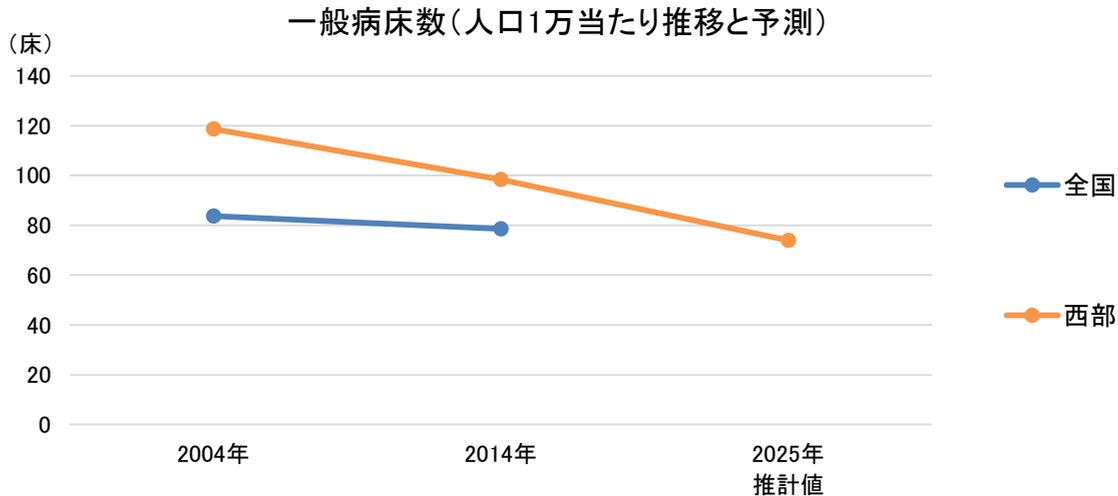
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が953人(人口10万人当たり387人(全国平均212人)偏差値71)であったが、2014年に998人(人口10万人当たり430人(全国平均246人)偏差値69)と、45人の増加、率にして5%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



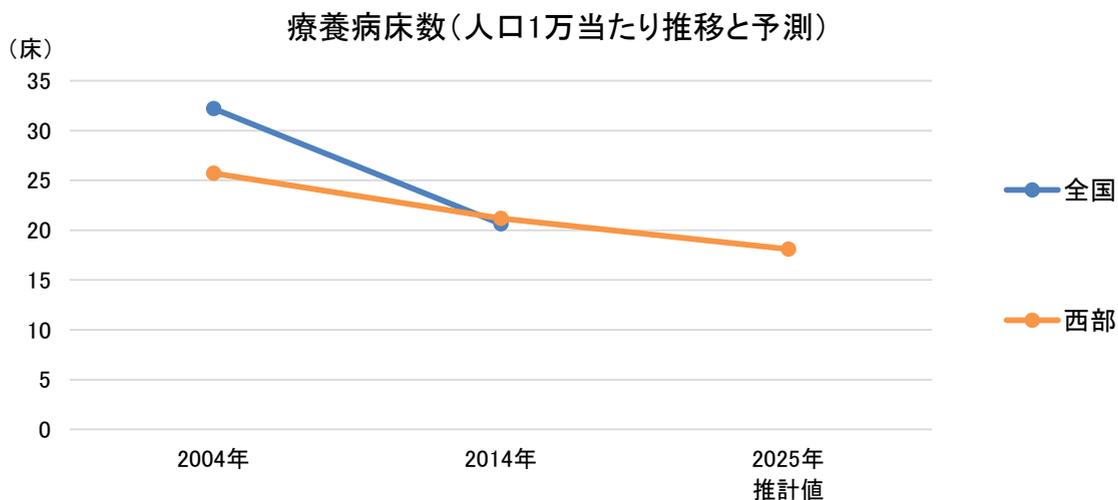
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2924床(人口1万人当たり119(全国平均84)偏差値62)であったが、2014年に2281床(人口1万人当たり98(全国平均79)偏差値57)と、643床の減少、率にして22%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1574床(2025年の推計人口1万人当たり74)になることが予想される。



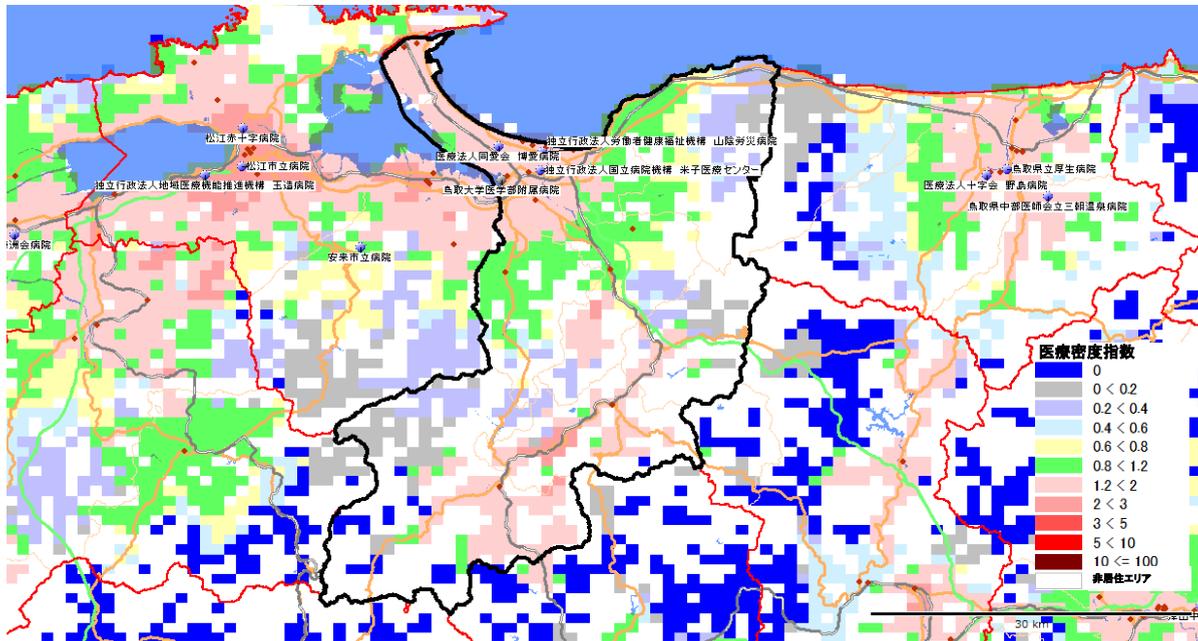
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が782床(75歳以上1000人当たり26(全国平均32)偏差値46)であったが、2014年に795床(75歳以上1000人当たり21(全国平均21)偏差値50)と、13床の増加、率にして2%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で増加が続くとすると2025年には809床(2025年の推計75歳以上1000人当たり18)になることが予想される。

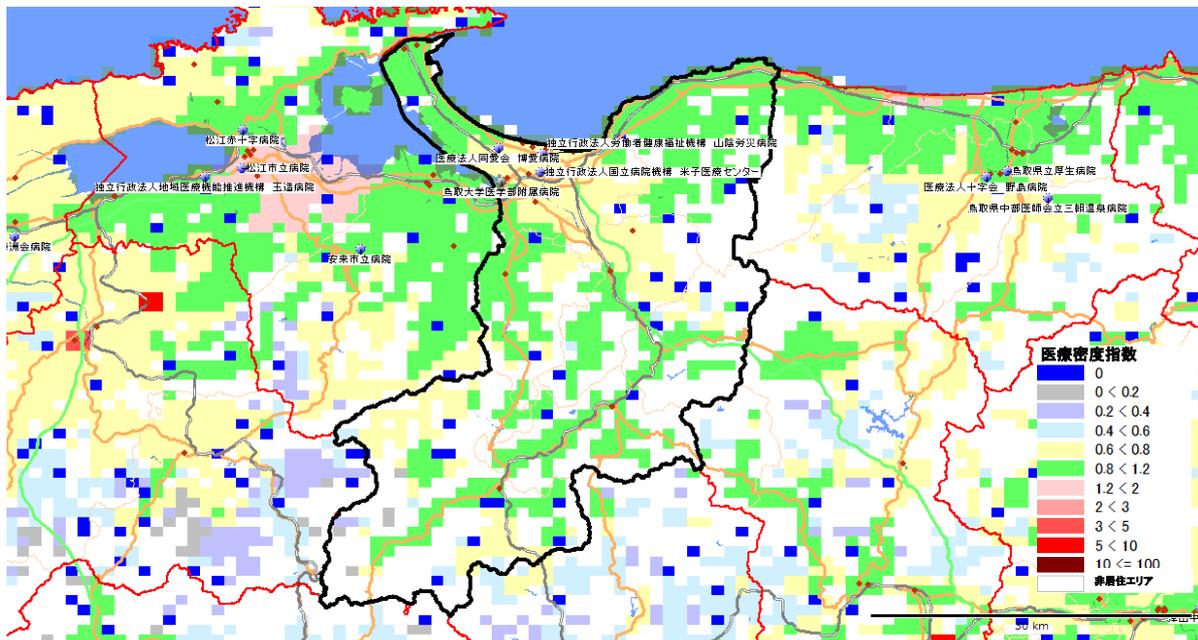


3. 医療密度⁵

図表31-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-3-2 慢性期医療密度指数マップ



注

¹1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所:国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

²その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。

³【医療の現状】で使用した総医師数は、病院医師数(平成26年病院報告(厚生労働省 平成26年10月))と診療所医師数(平成26年医療施設調査(厚生労働省 平成26年10月))の合計。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】で使用した2014年の総医師数は、平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省 平成26年12月)に基づく病院医師数と診療所医師数の合計。

⁴高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2016年の全国平均(99.3床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

⁵急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

⁶日医総研WP no.352「地域の医療提供体制の現状-都道府県別・二次医療圏別データ集(2015年度版)を更新。ウェルネス・二次医療圏データベースシステム使用。

⁷複数医療圏にまたがる広域連合の医療費・介護費については、構成市町村の医療圏毎の75歳以上人口比で案分した上で、二次医療圏単位で集計している。

⁸近畿厚生局のデータは入手できていないため、合計値には含んでない。人口あたり病床数(全国値)の算出にあたっては、データを手に入れている地域の人口は除いて計算している。

⁹市町村国保の保険者単位のデータしかないため、同一の保険者において複数の二次医療圏をもつ横浜市と川崎市は保険者単位で算出している。

「入院」は、入院診療及び食事療養・生活療養の計である。

「入院外+調剤」は、入院外診療及び調剤の支給の計である。

¹⁰日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。